

第8回 地方鉄道向け無線式列車制御システム技術評価検討会 概要

1. 日 時 : 令和6年10月21日(月) 15:00~17:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎3号館6階 鉄道局大会議室
3. 出席者 : 中村日本大学名誉教授、古関東京大学教授、高橋日本大学教授、
研究機関、関連団体、鉄道事業者、国土交通省鉄道局、日本信号株式会社
4. 結果概要 :

日本信号から、地方鉄道向け無線式列車制御システムについて、進捗状況や現車試験の試験項目・内容の報告が行われた後、意見交換を実施した。(一部修正あり)

委員からの主な発言は以下の通り。

- GNSSの誤差について、「事業者によって差が生まれる」とあるが、「線区的环境条件によって」が正しい。また、「加速度センサーだけでは加速度センサーの誤差のリセットが難しく」とあるが、加速度センサーだけで算出した位置は誤差が増大していく性質があるので、他の手段と組み合わせ、定期的に誤差のリセットが必要、ということではないか。
- 車上をインテリジェントにすることで、地上設備が削減され、これが検査費に反映されていることはわかるが、地上設備が軽くなっているにも関わらず、地上の更新費は既設システムと新システムであまり変わらないように見える。
- 新システムでは、1台故障しても、その時は故障対応が発生しないが、壊れた機器はいずれ修理することになる。また、評価基準とあるが、これは評価項目である。そのため、試験する際には、基準を明確にすること。
- 本システムは、閉塞境界の入口、出発信号機の入口、速度制限箇所の手前だけの位置を地上子等で確実に押さえておけば、そのほかの箇所は、加速度センサーでもGNSSでやっても、誤差が安全上問題にならない。